



学内ITサポート業務における本人確認を高度化、なりすまし防止と遠隔対応の両立を実現



設立 1858年
URL <https://www.keio.ac.jp/ja/>

慶應義塾大学は、創立者・福澤諭吉が掲げた「独立自尊」の理念のもと、学問の自由を尊重し、社会に貢献する人材の育成を目的とした教育・研究を行う私立大学です。実学を重視した教育方針を特色とし、教育・研究・医療など幅広い分野で先進的な取り組みを推進しています。また、多様な学生・教職員が安心して学び、働ける環境づくりにも力を入れています。今回、スマホで本人確認を導入した経緯などをご担当者様にお伺いしました。

— どのような事業を展開されていますか？

ご担当者様 慶應義塾大学は、1858年（安政5年）に福澤諭吉によって創設され、「独立自尊」の理念のもと、実学を重視した教育・研究を行う私立総合大学です。教育・研究活動にとどまらず、医療分野を含む幅広い領域で社会に貢献する取り組みを進めており、多様な学生・教職員が在籍しています。

その中で情報センターは、教職員および学生が日常的に利用する学内システムやネットワーク、アカウント管理、端末・ソフトウェアライセンス管理など、大学全体のIT基盤を支える中核組織として機能しています。学内のITサービスが円滑に利用できる環境を維持することは、教育・研究活動の基盤そのものを支える重要な役割だと考えています。

情報センターには日々多くの問い合わせが寄せられますが、その中でもID照会やパスワードリセット、多要素認証の一時解除など、本人確認を前提とした対応が必要となる業務は少なくありません。特に近年は、遠隔授業の定着や働き方の多様化、キャンパスの分散などを背景に、利用者が窓口へ来訪せずに対応を完結させたいというニーズが高まっています。その一方で、対面対応と同等、あるいはそれ以上の安全性をどのように担保するかが、大きな課題となっていました。



— eKYCによる本人確認を導入した理由・背景・経緯などをお聞かせください。

ご担当者様 導入以前は、窓口での対面確認を原則とし、やむを得ない場合のみファイルアップロードフォームを利用して身分証の写しを提出してもらい、人事情報や学籍情報との照合によって本人確認を行っていました。この運用は一定の効果があった一方で、遠隔対応においてはいくつかの課題を抱えていました。

具体的には、

- ・ 提出された身分証が「現在申請している本人」であることを十分に裏づけられない
- ・ 顔写真と申請者本人が一致しているかを遠隔で厳密に確認できない
- ・ 業務効率化や自動化を進めるほど、なりすましによる不正申請のリスクが高まる

といった点です。

特にパスワードリセットのように、アカウントの利用権限そのものに影響を与える業務では、「本人確認が正しく行われている」という前提が崩れること自体が、情報セキュリティ上の重大なリスクにつながります。担当者が慎重に確認していても、書類だけでは判断が難しいケースがあり、属人的な対応に頼らざるを得ない状況に限界を感じていました。

こうした課題に加え、利用していた外部ファイルアップロードサービスの契約終了をきっかけに、単なる代替手段ではなく、より厳密で再現性の高い本人確認を実現できる仕組みとしてeKYCの導入を本格的に検討することになりました。検討段階では、API連携型やJavaScript組み込み型など、複数のeKYCサービスを比較しましたが、大学側で新たなサーバ構築や大規模なシステム改修を行わずに導入できること、既存の問い合わせ対応フローに無理なく組み込めることを重視しました。その結果、運用負荷を抑えながら本人確認の精度を高められる点が評価され、「スマホde本人確認」の採用に至りました。

— その中で今回GMOグローバルサインのスマホde本人確認をお選びいただいた理由がございましたら、お聞かせください。

ご担当者様 選定において特に重視したのは、セルフィー撮影を含めた本人確認フローです。従来の身分証アップロードのみの運用では、「申請内容の名義人」と「提出された身分証・写真の人物」が本当に同一人物であるかを、システムとして担保することが難しいと感じていました。

「スマホde本人確認」では、身分証の記載内容に加え、その場で撮影されたセルフィー画像を照合することで、「今、申請している人物が本人であるか」を高い精度で確認できます。仮に第三者が他人の身分証を所持して申請を行った場合でも、セルフィーとの不一致によって不正を検知できる点は、遠隔対応を前提とする情報センター業務において非常に大きな安心材料となりました。

また、大学側で専用のサーバを用意したり、既存システムに大きな改修を加えたりする必要がなく、現在の業務フローに“差し込む”形で利用できる点も、現場運用を考える上で評価したポイントです。

— 導入後、実際に運用してみたの感想などお聞かせください。

ご担当者様 導入後は、遠隔対応における本人確認の精度が大きく向上したと実感しています。なりすましリスクを抑えながら、遠隔でのパスワードリセット対応が可能になったことで、利用者の利便性とセキュリティの両立が実現できました。

また、本人確認プロセスを標準化できたことで、職員が過度に慎重な個別判断を行う必要が減り、対応品質のばらつきも抑えられています。これにより、将来的な業務自動化やさらなる効率化に向けた検討も進めやすくなりました。結果として、セキュリティレベルを維持・向上させながら、情報センター全体の業務効率改善にもつながっていると感じています。

 **GlobalSign®** by **GMO** **GMOグローバルサイン株式会社**

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-2-3 渋谷フクラス

TEL：03-4545-1800（受付時間：平日10:00～18:00）

グローバルサイン

検索

<https://jp.globalsign.com/>

GSM260331E-EKYC-0003